

令和5年度 第2回 静岡県ギャンブル等依存症対策連絡協議会

日 時 令和6年2月28日(水) 13:00～14:30

場 所 男女共同参画センター(あざれあ) 501会議室

協議事項 第2期 静岡県ギャンブル等依存症対策推進
計画の策定について

目次：【静岡県ギャンブル等依存症対策推進協議会】協議資料

資料 1 前回協議会の主な意見

資料 2 パブリックコメントへの対応状況

資料 3 本県のギャンブル依存症対策に関連する取組

資料 4 【第2期】静岡県ギャンブル等依存症対策推進計画【概要版】

資料 5 今後のスケジュール

計画冊子 静岡県第2期ギャンブル等依存症対策推進計画

主な委員意見

ネットでゲーム課金やギャンブルをすることが普通になってきており、ギャンブルへの垣根が低くなっている。今後のギャンブル等依存症対策は、小児を含め若年層から予防的に対策をしていかないと将来にわたっての潜在的ギャンブル依存者が減らない。

ギャンブル等依存症は、本人だけでなく、家族の問題でもある。

自殺の背景には依存症が密接に関わっている

身体に影響を及ぼすアルコール依存症から治療することになるが、ギャンブル依存は金銭面の問題から当事者の家族も関わることもあるため多面的に対策をとることが重要。

司法書士会において多重債務に関する相談を受付けている。

司法書士との連携課題について、県で連携できる形をつくっていただき、協力していきたい。

【パブリックコメント】第2期静岡県ギャンブル等依存症対策推進計画(案) 県民意見への対応

資料2

1 意見募集期間 令和5年12月27日(水)から令和6年1月24日(水)まで

2 意見件数等 3名の方から5件の意見が寄せられた。

3 意見区分等

区分	対応	件数
A	御意見の趣旨を踏まえ、案を修正する場合	0件
B	案の修正はしないが、御意見を踏まえて取り組む場合	1件
C	現時点では意見を計画や取組に反映することは困難だが、今後の参考とする場合	0件
D	計画の修正に関わる意見だが、修正せず原案のとおりとする場合	2件
E	計画への記載についての意見だが、既に記載してある場合	0件
F	その他の御意見	2件

【パブリックコメント】第2期静岡県ギャンブル等依存症対策推進計画(案) 県民意見への対応

番号	頁	意見内容	県の対応	
	計画全般	12月27日に開始するパブリックコメントの案件が10件と多すぎる。	F	健康福祉部は26の分野別計画を所管しており、今年度は、このうち15計画の改定と1計画の新規策定を予定しています。各々の計画の関係性などを考慮した上で御意見をいただきたいと考え、同時期にパブリックコメントを実施いたしました。
	計画全般	アルコールの関連計画と重複しているページが多数あるため、改定年数をどちらかに合わせて1冊にするべき。	D	いずれも法律に基づく県計画であり、計画期間も計画に準じた期間としています。
	計画全般	諸外国と比較して日本はギャンブル依存症者が多い。その中でもパチンコ・パチスロが多いがこれらはギャンブルではなく違法賭博である。行政は法律に則ったパチンコの取り締まりを行うべきである。	F	ぱちんこ・パチスロは法令（風営適正化法）で認められている遊技施設です。それぞれの規制は管轄である警察庁にて行われており、違法な賭博を行っている実態があれば、警察において取締りを行います。
	16	動画配信サイト等上では過度に射幸心をあおるようなものが多く配信されている。依存症の怖さについてTVニュースメディアが介入することは重要だが難しい。行政において市民に問いかけるイベントを開催していくことが望ましい。	B	県では、ギャンブル等依存症問題啓発週間（毎年5月14日から同月20日まで）における啓発のほか、依存症当事者や御家族の体験談を交えた県民向け普及啓発フォーラムを開催しております。また、近年深刻化しているゲーム障害につきましても県内各地でワークショップを開催しているところです。これらの取組を今後も推進し、依存症に関する正しい理解と知識の普及に努めてまいります。
	20	オンラインカジノや課金の問題点は新しい形のギャンブルとしては重要だが、数値目標などの対策が追いついていない印象。	D	コロナ禍以降、オンライン上のギャンブル等や違法カジノ、ギャンブル等依存症につながりかねないゲーム課金など、新たな課題に対応していく必要があると認識しています。いただいた御意見は、静岡県ギャンブル等依存症対策連絡協議会における検討事項の参考とさせていただきます。

第2期静岡県ギャンブル等依存症対策推進計画(案) 事務局での検討 修正事項

番号	頁	事務局内での検討事項	修正
	1	「...多重債務や犯罪等の重大な社会問題が生じる場合がある。」とあるが、犯罪と並べるのは適当ではないのではないか。	多重債務を <u>要因とする犯罪など</u> 重大な社会問題につながる場合があります。
	3	「関係事業者」については、一般企業の事業者のことか。公営競技等を運営する団体等は含まれるのか分かりにくい。	基本法では、国、地方公共団体、関係事業者（ <u>ギャンブル等の実施に係る事業のうちギャンブル等依存症の発症、進行及び再発に影響を及ぼす事業を行う者</u> ）、国民（県民）、ギャンブル等依存症対策に関連する業務に従事する者（ <u>医療、保健、福祉、教育、法務、矯正、その他</u> ）の責務が定められています。
	4	「依存症は適切な支援や治療を受けることで回復可能な病気であることから、医療機関や自助グループ等との継続的なつながりを持つことが重要です。」とあるが、「家族会は」本人への治療等ではなく、家族への支援であるので、分けて記述すべきではないか。 「行動嗜癖」は分かりにくい。	家族会について、前段を下記のとおり修正。 「一方、家族はアルコールによる暴力やギャンブルによる借金の尻ぬぐいなどに翻弄され、本人以上に疲弊する <u>場合があり、家族会への参加など悩みを分かち合い、共有できる場を持つことが重要です。</u> 」 脳には、快感や幸せを感じる機能があり、 <u>依存の形成過程に関連しています。</u>
	4	「特に、子どもは前頭前野が十分に発達していないため、嗜癖行動にのめり込む危険性が高いと言われています。」とあるが、ゲームは最初にしか出てこないため、こどもに関する記述が唐突に感じる。	特に、子どもは前頭前野が十分に発達していないため、 <u>ゲームやインターネットに過度にのめり込むと、将来的にギャンブル等依存症につながる危険性があります。</u>
	17	「依存症治療拠点機関等」は説明が必要。	「依存症専門医療機関」、「依存症治療拠点機関」、「依存症相談拠点機関」の説明を追記する。

第2期静岡県ギャンブル等依存症対策推進計画(案) 事務局での検討 修正事項

番号	頁	意見内容	県の対応
	26	<p>本人だけではなく家族も重要であるので、2(2)進行予防と(3)回復支援・再発予防の中に、家族の理解促進や家族に対する支援についても記述すべき。</p>	<p>以下のとおり追記 (2)(進行予防) 誰もが相談できる相談場所と、必要な支援につなげる連携体制づくり 精神保健福祉センター、保健所及び消費生活センター等が中心となり、 <u>ギャンブル等依存症である者やその家族が安心して相談できるよう</u>、相談 窓口を確保し、関係事業者、医療機関及び自助グループ等との連携に より、適切な相談支援、社会復帰支援につなげる体制づくりを行います。 (3)回復支援・再発予防 ギャンブル等依存症である者の回復及び社会復帰が円滑に進むよう、 社会復帰に携わる支援者や家族のギャンブル等依存症への理解を深め <u>ます。また、ギャンブル等依存症からの回復には、自助グループ等の民間</u> <u>団体と継続的なつながりを持つことが重要であるため、ギャンブル等依存症</u> <u>である者やその家族に対し、自助グループ等の民間団体が果たす役割を</u> <u>周知するなどの支援を行います。</u></p>

本県における依存症対策の概要

依存症に係る医療機関、行政、民間団体等と連携し、相談・治療回復・支援者研修・普及啓発・受診後支援により、依存症者を総合的に支援する体制を整備する。

【依存症対策地域支援事業】

区 分	実 施 内 容
依存症地域支援体制推進事業	アルコール健康障害対策連絡協議会
他職種連絡調整会議の開催	依存症対策連絡協議会
依存症に関する相談、情報収集・分析等	依存症に関する専門的な相談対応、依存症対策に関する情報収集や分析等
地域における依存症支援者研修	依存症医療従事者向け研修 地域における依存症支援者研修
依存症普及啓発・情報提供	啓発リーフレット等費用、自助グループフォーラム共催
依存症の治療・回復支援事業	認知行動療法の手法を用いた集団治療回復プログラム等実施
依存症患者の家族支援	依存症患者の家族向け講演会の開催 依存症家族教室の実施
受診後の患者支援事業	病院における受診後の患者支援事業委託（当事者会、家族会、プログラムの実施）
ギャンブル等依存症対策事業	ギャンブル等依存症対策連絡協議会、普及啓発
ゲーム障害・ネット依存対策事業	ゲーム障害の相談・回復支援プログラム実施

本県のギャンブル等依存症対策に関する取組【進行予防】... 依存相談

概要	アルコール、薬物、ギャンブル等の依存症問題についての相談に応じることにより、依存症当事者やその家族に対し、依存症に関する知識の普及や適切な支援機関につなぐ、適切な対応を伝えるなどの支援を行う。
内容	<ul style="list-style-type: none"> •形式：来所による個別面接 •対象：当事者、当事者に関わる人（家族等） •相談員：マリアの丘クリニックMHSW、断酒会理事長、聖明病院MHSW、服部病院MHSW •相談場所： <ul style="list-style-type: none"> -中部地区(県精神保健福祉センター：静岡市内) 第1・第3木曜日、第3月曜日 -東部地区(東部健康福祉センター：沼津市内) 第1水曜日 -西部地区(西部健康福祉センター：磐田市内) 第3月曜日
評価	<p>令和4年度の相談件数は、85件と性依存や買い物依存等の相談が増え、その他依存に係る相談で継続ケースがあり令和3年度の42件から大幅に増加した。</p> <p>依存症に関する普及啓発により、アルコール、薬物以外の物質依存以外の相談も対象であることや、精神保健福祉センターが相談拠点機関であると認知されてきたことが考えられる。</p> <p>また、クロスアディクションに関する問題を抱える相談者も増えており、相談内容はより複雑化している。</p>

依存相談（対面相談）

依存物質・行為	R3	R4
アルコール	16件	14件
薬物	3件	2件
ギャンブル	16件	30件
その他(ゲーム・ネット、買い物、性)	7件	39件
合計	42件	85件

電話相談のうち依存症関連

依存物質・行為	R3	R4
アルコール	61件	68件
薬物	23件	20件
ギャンブル	73件	72件
その他(ゲーム・ネット、買い物、性)	25件	29件
合計	182件	189件

(参考) 電話相談件数《総数 R3:3,114件 R4:3,026件

本県のギャンブル等依存症対策に関する取組【回復支援】...リカバリーミーティング

概要	アルコール、薬物、ギャンブル等の様々な依存を抱えた当事者及び家族を対象に、認知行動療法を取り入れたグループミーティングを実施することにより、依存症からの回復を図るとともに、依存問題を抱える者の生活を支える。また、ミーティングへの継続的な参加により、地域の自助グループへつなげる。
内容	<ul style="list-style-type: none"> •中部地区（月2回） * 1クール10回 年間2クール 原則第2・第4火曜日 •東部地区（月1回） * 1クール6回 年間2クール 原則第1水曜日 •スタッフ：断酒会、スルガダルク、聖明病院、静岡ダルク、精神保健福祉センター
評価	令和4年度は新規参加者が多く、県ホームページや啓発カードを見て参加を希望した方がおり、啓発の効果が出てきている。

	会場	実施回数	延べ参加者数
R3	中部(静岡)	21回	26人
	東部(沼津)	9回	18人

	会場	実施回数	延べ参加者数
R4	中部(静岡)	24回	52人
	東部(沼津)	12回	42人

	会場	実施回数	延べ参加者数
R5	中部(静岡)	20回	60人
	東部(沼津)	9回	35人

【保護観察所との連携】

薬物の再乱用防止を目指し、切れ間のない支援を実現するため、令和2年度から令和4年度は静岡保護観察所の要望を受け、薬物再乱用防止プログラムの集団処遇に、助言とリカバリーミーティングの周知を目的として精神保健福祉センター職員を派遣した。

その結果、保護観察期間終了後にミーティングにつながる事例が複数あった。

令和5年度から、保護観察所と精神保健福祉センターの2機関で現状報告とその年に必要な連携のあり方について連絡会を開催し、情報共有と協議を行っている。

本県のギャンブル等依存症対策に関する取組【回復支援】... 家族支援(講演会・家族教室)

【概要】

アルコール問題を抱える当事者の家族等をはじめ県民広くに、正しい知識を普及し、早期に各相談窓口・医療機関及び自助グループ等適切な専門機関につながることを目的に実施

年度	実施機関	内容	参加者数
R3	服部病院(委託)	第5回家族のわかちあい(断酒会との共催) 家族による体験談 講師：服部病院 寺田 友博 氏	240人
	精神保健福祉センター	アルコール問題を抱えるご家族への講演会(講演、当事者とご家族による体験談、家族の分かち合い) 講師：静岡福祉大学教授 長坂 和則 氏 静岡県断酒会理事長 小泉 登資 氏 断酒会家族 小泉 京子 氏	24人
R4	服部病院(委託)	静岡県断酒会と共催し、第6回家族の分かち合い「1日体験談の集い」を開催。1日を通して体験談に終始。家族による体験談を語り聞くことで、依存症からの回復の難しさや喜びを知る。	190人
	精神保健福祉センター	令和3年度と同内容で実施	31人
R5	服部病院(委託)	令和4年度と同内容で実施	225人
	精神保健福祉センター	アルコール問題を抱えるご家族への講演会(講演、当事者とご家族による体験談) 講師：静岡福祉大学教授 長坂 和則 氏 AAメンバー ヒロユキ 氏 静岡県断酒会理事長 小泉 登資 氏 静岡県断酒会家族 長谷川 康子 氏 断酒会家族 小泉 京子 氏	33人

本県のギャンブル等依存症対策に関する取組【進行予防】... 依存症問題従事者研修 【回復支援】... 受診後の患者支援事業

依存症問題従事者研修

概要	依存症に関する相談対応の向上や依存問題を抱える者に対する効果的な支援に関する基礎知識を習得するため、相談支援者や医療従事者向けの研修を実施する。
内容	ギャンブル障害の基礎知識とSAT-G（ギャンブル障害回復トレーニングプログラム）を用いた支援
評価	令和2年度はSAT-Gライト、令和3年度からは3年間SAT-Gをテーマに研修を実施。SAT-Gに移行してからの3年間で151人が受講しており、受講者からは、実践的でわかりやすいと好評である
参加者	R3年度(10/12)...30人 R4年度(8/16)...70人 R5年度(9/14)...46人

【受診後の患者支援事業（概要）】

依存症治療拠点機関において、医療機関の受診後又は退院後の依存症患者について、自助グループ等の民間支援団体と連携しながら、患者と民間支援団体の【顔の見える関係作り】、【繋がり】の定期的な確認により、患者に対して継続的に支援を行う。

実施機関	内容	連携民間団体
聖明病院	<ul style="list-style-type: none"> 院内自助グループ（タクト）の断酒定例会 ダルクによる当事者ミーティング ダルクによる依存症回復プログラム 	県断酒会、ダルク
服部病院	<ul style="list-style-type: none"> 断酒会・AAと連携した退院者対象の同窓会（年1回） 断酒会員との語り合いの会（毎月1回、誰でも） 院内例会における断酒会、AAによる体験談（毎週1回） NA・ダルクによる当事者ミーティング（毎週1回） GAによる入院・外来患者とのミーティング（毎週1回、隔週で家族の勉強会も実施） 	県断酒会、AA、NA、ダルク、GA

本県のギャンブル等依存症対策に関する取組【発症予防】

依存症フォーラム概要

背景・動機	県民インターネットアンケート結果では、自助グループの存在・活動内容等があまり知られていない	
	次期計画の中でテーマの一つとしている【クロスアディクション】に関して理解を深めていただきたい	
	その中で、当事者、各自助グループにおいても他の依存症のことを知り相互理解につなげていく	
	依存症は自らを制御できなくなる【コントロール障害】であることを周知することが重要	
ねらい	自助グループの活動内容等を周知・理解することで、当事者の自立を促し、再発予防につなげる	
	対象の異なる依存症(物質依存・行動嗜癖)への相互理解	クロスアディクションの注意喚起
	他の依存対象への移行・共存リスクの理解促進	
テーマ	<u>【依存症の回復支援】</u>	
基調講演	静岡福祉大学 社会福祉学部長 長坂和則教授 演題...『依存症にひそむ重複障害とは～クロスアディクションを考える～』	
パネリスト等	テーマ...『依存症と重複障害の気づきと回復に向けて』 ギャンブル等依存症の当事者、ゲーム障害、ギャンブル等依存症の当事者 薬物依存症、アルコール依存症の当事者、重複障害の家族	
日時等	【日時】令和6年2月23日(祝) 【会場】静岡県県産業経済会館(静岡市葵区) 【参加者】66名	

ゲーム障害・ネット依存対策ワークショップ

- ・ゲーム障害・ネット依存に関する基本的な知識・情報の提供
- ・ゲーム障害・ネット依存に対する静岡県の取組の説明
- ・グループワークによるご家庭等でのお困り事や取組等の共有

令和5年度ワークショップ実施日

開催日	開催会場
5月13日(土)	富士会場
5月20日(土)	沼津会場
7月15日(土)	静岡会場
7月22日(土)	オンライン
10月14日(土)	掛川会場
10月21日(土)	浜松会場

回復支援プログラム

ゲーム障害・ネット依存からの回復に向け、本人及び家族に対するプログラムを実施。

< 本人向けプログラム >

ゲーム・ネットの使い方を見つめ直し、その付き合い方を学ぶことで、「充実したより良い生活」を送れるようになることを目指す。

< 家族向けプログラム >

ゲーム障害・ネット依存に対する理解、ご本人との向き合い方、関わり方を学ぶ。

< 対象者 > **ご家族のみの参加も可能です。**

本人：ゲーム障害・ネット依存の疑いのある小学生以上の方
家族：上記本人の御家族

本県のギャンブル等依存症対策に関する取組【発症予防】...ゲーム障害・ネット依存対策

【ネット依存度判定システム】

概要	・Webによる【ネット依存度判定システム】により、児童生徒(保護者)によるセルフチェックを促進する。市町教育委員会へ周知を図り、学校や保護者に対し利用を呼びかけ、データの集約や傾向を把握する。【システム】(Kスケール、IAT、DQ)
利用者数	児童・生徒16,164人

	人数	依存リスク該当者	
		人数	割合
小学校	6,560	2,006	30.6
		(中リスク) 1,728	(中リスク) 26.3
		(高リスク) 278	(高リスク) 4.2
中学校	7,032	3,220	45.8
		(中リスク) 2,845	(中リスク) 40.5
		(高リスク) 375	(高リスク) 5.3
高校	2,563	1,283	50.1
		(中リスク) 1,209	(中リスク) 47.2
		(高リスク) 74	(高リスク) 2.9
特支	9	5	55.6
		(中リスク) 3	(中リスク) 33.3
		(高リスク) 2	(高リスク) 22.2
計	16,164	6,514	45.5
		(中リスク) 5,785	(中リスク) 36.8
		(高リスク) 729	(高リスク) 8.7

【リスク該当者】

< 中リスク > : 要注意。ネット・スマホの使い方をもう一度、よく考え直す必要あり。

< 高リスク > : 要早急な改善が必要。ネット依存傾向が非常に強い。



利用した各学校において、児童・生徒全体の傾向を把握するとともに、出力された個票を利用した面談や生徒指導等を実施。

調査結果を公表し、ネット依存リスクの状況を広く周知する。

本県のギャンブル等依存症対策に関する取組【発症予防】...ゲーム障害・ネット依存対策

ニートやひきこもり、不登校等の悩みに個別に応じる合同相談会

概要	本人や保護者、学校関係者等がネット依存・ゲーム障害について個別に相談できるブースを設置する。
実施日等	7月8日 静岡市教育センター 8月19日 富士市教育プラザ 11月4日 島田市総合スポーツセンター 8月6日 サンウェルぬまづ 10月15日 浜北文化センター 相談者計 16人
参加団体等	相談機関、学習支援団体、就労支援団体、定時制・通信制高校、サポート校、親の会...等
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> ・社会復帰を考えている本人や保護者にとって、進学や生活相談と同時にネット依存の困り感を話せるきっかけとなることができた。 ・相談者にとっては、病院や施設に訪問しての相談ではなく、気軽に立ち寄ることができるようで、ブースを設置することは有効であった。

本県のギャンブル等依存症対策に関する取組【発症予防】...ゲーム障害・ネット依存対策

自然体験回復プログラム「つながりキャンプ」

概要	自然体験活動や認知行動療法等を取り入れた宿泊プログラムを通して自身の生活習慣を振り返り、ネットの利用を自分でコントロールする力を養う。
日程	説明会（8月20日）、プレ（9月2,3日）、メイン（10月8,9日）、フォローアップ（11月11,12日）
場所	国立中央青少年交流の家（御殿場市）
対象	県内の小学生（5・6年生）・中学生 8人参加（申込数10人）
内容	自然体験活動、認知行動療法、カウンセリング、講座 等
実施成果	<ul style="list-style-type: none">・キャンプ前後のネット依存度判定の結果を比較すると、ゲームの優先度が下がり、依存リスクが高リスクから中リスクに改善した事例が見られた。・認知行動療法やカウンセリング等により、これまでの生活習慣や考え方を振り返り、今後の自分を変えるきっかけづくりにつながった。・「対話をする」、「ルールを見直す」等、子どもだけではなく、保護者のネットやスマホの使い方にも意識の変化が見られた。
今後の予定	<ul style="list-style-type: none">・子どもたちが家庭を離れる精神的負担や活動による体力的負担を考慮し、移動時間なども含め時間に余裕がある活動プログラムを検討する。・外部講師を依頼するなど、普段の生活では体験できないような、様々な経験が積めるような体験活動を検討する。・大学生サポーターが企画・運営する時間は参加者に好評であり、大学生にとっても指導的立場として成長する貴重な体験となっているので、引き続き実施していく。

時 期		内 容
令和5年	9月	静岡県ギャンブル等依存症対策連絡協議会(第1回)
	10月	静岡県依存症対策連絡協議会(第1回)
	11月	静岡県精神保健福祉審議会
	12月～	パブリックコメント
令和6年	2月	静岡県ギャンブル等依存症対策連絡協議会(第2回)
	2月	静岡県依存症・アルコール健康障害対策合同連絡協議会(第2回)
	3月	静岡県精神保健福祉審議会(書面開催)
	3月	県議会常任委員会(厚生委員会)報告
	3月末	計画公表